

	所属	現代社会学部 現代社会学科
	専攻	現代ビジネス専攻
	主な担当科目	日本語・日本語特講
	氏名	枝光 美穂
	フリガナ	エダミツ ミホ
	職位	教授
	学位等	博士(比較社会文化)

研究内容・社会業績等

日本語を第二言語として学習する、日本語学習者の習得に関する研究を行っている。

論文・書籍・資格等

主な論文

- 岡田美穂・林田実(2007)「日本語学習者による格助詞の混同ー存在場所の「に」と範囲限定の「で」ー」,日本語教育論集23号国立国語研究所,3-15.
- 岡田美穂・李相穆・志水俊広(2012)「存在場所につく二格の習得ーJFL環境における中国語を母語とする日本語学習者の場合ー」,東アジア日本語・日本文化研究14,32-47.
- 岡田美穂・林田実・李相穆(2014)「存在場所「に」と範囲限定「で」の混同ー韓国語を母語とする「中位レベル」の日本語学習者の場合ー」,日本学報第99輯韓国日本學會,121-135.
- 岡田美穂(2015)「中国語を母語とする日本語学習者の格助詞「を」の習得に関する研究」,九州産業大学語学教育研究センター紀要Volume10,35-47.
- 岡田美穂・奥田俊博(2015)「場所を表す名詞に下接する格助詞「に」「で」「を」についてー日本語教育の観点に基づく先行研究の整理と課題ー」,九州共立大学紀要5巻2,99-105.
- 岡田美穂・林田実(2016)「中級レベルの日本語学習者の移動先を表す「に」と場所を表す「で」の習得ー中国語話者を対象としてー」,日本語教育163,48-63.
- 岡田美穂・林田実・岩田祐佳(2017)「L2 Acquisition of Japanese Case Particle ni Indicating Place of Existence by Chinese」,Journal of second and multiple language acquisition. Vol4,Issue4,(p112-126).
- 岡田美穂(2020)「中国語を母語とする中級レベルの日本語学習者の場所を表す「に」の習得ー誤用の減少と母語活用の有無に注目してー」,東アジア日本語・日本文化研究第27集特別号28,53-73.
- 岡田美穂・朴恵英(2023)「中級レベルの日本語学習者の移動先二の習得ー「動」から「静」への変化に着目してー」,東アジア言語文化論叢2,35-50.
- 岡田美穂・林田実(2024)「中級レベルの日本語学習者の場所を表す格助詞「に」の習得ーベトナム語話者を対象としてー」,東アジア言語文化論叢3,41-57.

学生へのメッセージ

担当科目:日本語(留学生対象)・日本語特講(留学生対象)・基礎ゼミ I ~ IV・専門演習・卒業研究指導

- ・学生がレポートを書く力を身につけることを目的とした授業を行っています。
- ・留学生の資格試験合格を応援しています。空き時間を活用し、模擬試験を一緒にやってみましょう。